

デーヴォ ガイド



2024.7.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

6:1 預言者の仲間たちがエリシャに、「ご覧のとおり、私たちがあなたと一緒に住んでいるこの場所は狭くなりましたので、6:2 ヨルダン川に行きましょう。そこから各自一本ずつ梁にする木を切り出して、そこに私たちの住む場所を作りましょう」と言うと、エリシャは「行きなさい」と言った。

6:3 すると一人が、「どうか、ぜひ、しもべたちと一緒に来てください」と言ったので、エリシャは「では、私も行こう」と言って、6:4 彼らと一緒に出かけた。彼らはヨルダン川に着くと、木を切り倒した。

6:5 一人が梁にする木を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちてしまった。彼は叫んだ。「ああ、主よ、あれは借り物です。」

6:6 神の人は言った。「どこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、エリシャは一本の枝を切ってそこに投げ込み、斧の頭を浮かばせた。

6:7 彼が「それを拾い上げなさい」と言ったので、その人は手を伸ばして、それを取り上げた。

6:8 さて、アラムの王がイスラエルと戦っていたとき、彼は家来たちと相談して言った。「これこれの場所に陣を敷こう。」

6:9 そのとき、神の人はイスラエルの王のもとに人を遣わして言った。「あの場所を通らないように注意なさい。あそこにはアラム人が下って来ますから。」

6:10 イスラエルの王は、神の人が告げたその場所に人を遣わした。神の人が警告すると、王はそこを警戒した。このようなことは一度や二度ではなかった。

6:11 このことで、アラムの王の心は激しく動揺した。彼は家来たちを呼んで言った。「われわれのうちのだれがイスラエルの王と通じているのか、おまえたちは私に告げないのか。」

6:12 すると家来の一人が言った。「いいえ、わが主、王よ。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室の中で語られることばまでもイスラエルの王に告げているのです。」

6:13 王は言った。「行って、彼がどこにいるかを突き止めよ。人を遣わして、彼を捕まえよう。」そのうちに、「今、彼はドタンにいる」という知らせが王にもたらされた。

6:14 そこで、王は馬と戦車と大軍をそこに送った。彼らは夜のうちに来て、その町を包囲した。

列王記は旧約の預言書に位置します。律法に従うなら祝福と救い、従わないなら呪いと滅びという主の約束に対して、人々がどのように行動してどのような結果をもたらすのか、それについて主からのことばを預かって、伝えるのが預言者です。その預言者は現実の中で生活し、主に従い、互いに支え合い、活動したのだと分かります。エリシャは独善的に批判するような人ではなく、弟子たちと作業を共にし、弟子の困った時に助け、また「借り物」に対する責任を果たすような社会性をも持っていました。

「枝」が奇跡のわざなのか、斧の穴にうまくはまって浮かせることができたのか、定かではありません。ただしどのような神の奇跡も、ある人にとっては主のわざであり、別の人にとっては偶然のできごとと思うでしょう。それは主との個人的な交わりによります。しかし、直接であっても偶然であっても、その背後には全能の主が働いて、全てを導いておられることを忘れないようにしま

しょう。
主がエリシャに働いておられたことは確かです、それゆえアラムの王は、スパイがいると勘違いしたほどでした。あらゆる場面で主の全能を認め、信頼し、感謝し、そして従いましょう。現実の中で、生きた主を体験していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 火曜

列王Ⅱ



6:15 神の人の召使いが、朝早く起きて外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若者がエリシャに、「ああ、ご主人様。どうしたらよいのでしょうか」と言った。

6:16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。

6:17 そして、エリシャは祈って【主】に願った。「どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」【主】がその若者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。

6:18 アラム人がエリシャに向かって下って来たとき、彼は【主】に祈って言った。「どうか、この民を打って目をくらませてください。」そこで主はエリシャのことばのとおり、彼らを打って目をくらまされた。

6:19 エリシャは彼らに言った。「こちらの道でもない。あちらの町でもない。私について来なさい。あなたがたの捜している人のところへ連れて行ってあげよう。」こうして、彼らをサマリアへ連れて行った。

6:20 彼らがサマリアに着くと、エリシャは言った。「【主】よ、この者たちの目を開いて、見えるようにしてください。」【主】が彼らの目を開き、彼らが見ると、なんと、自分たちはサマリアの真ん中に来ていた。

6:21 イスラエルの王は彼らを見て、エリシャに言った。「私が打ち殺しましょうか。私が打ち殺しましょうか。わが父よ。」

6:22 エリシャは言った。「打ち殺してはなり

ません。あなたは、捕虜にした者を自分の剣と弓で打ち殺しますか。彼らにパンと水を与え、食べたり飲んだりさせて、彼らの主君のもとに行かせなさい。」

6:23 そこで、王は彼らのために盛大なもてなしをして、彼らが食べたり飲んだりした後、彼らを帰した。こうして彼らは自分たちの主君のもとに戻って行った。それ以来、アラムの略奪隊は二度とイスラエルの地に侵入しなかった。

アラムの大群に包囲された預言者学校の「若い者」は動揺しましたが、エリシャが祈ると神の大群が山に満ちているのが分りました。これこそが信仰者の力です。私たちが恐れ絶望しているときにも、主の力はその敵や困難よりもはるかに大きいのです。主の勝利はぎりぎりのものではなく、勝ち得て余りあるものです。

エリシャにとってこの勝利は、相手を苦しめて優越感を味わうためのものでも、大打撃を与えて英雄になるためのものでもありません。ただ主のみこころを行うためであり、主の民に平和が与えられるためでした。

ですから報復の連鎖を続けるような復習ではなく、「彼らを飲み食いさせて…帰した」のです。結局、彼らは「二度とイスラエルの地に侵入してこなかった」のでした。

主の力を信じて、恐れなくて堂々としていきましょう。主を信じるゆえに、寛容な心で主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 水曜

列王Ⅱ



6:24 この後、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを包囲した。

6:25 サマリアには大飢饉が起こっていて、また彼らが包囲していたので、ろばの頭一つが銀八十シェケルで売られ、鳩の糞一カブの四分の一が銀五シェケルで売られるようになった。

6:26 イスラエルの王が城壁の上を通りかかると、一人の女が彼に叫んだ。「わが主、王よ。お救いください。」

6:27 王は言った。「【主】があなたを救わないのなら、どのようにして、私があなたを救うことができるだろうか。打ち場の物をもってか。それとも、踏み場の物をもってか。」

6:28 それから王は彼女に尋ねた。「いったい、どうしたというのか。」彼女は答えた。「この女が私に『あなたの子どもをよこさない。私たちは今日、それを食べて、明日は私の子どもを食べましょう』と言ったのです。」

6:29 それで私たちは、私の子どもを煮て食べました。その翌日、私は彼女に『さあ、あなたの子どもをよこさない。私たちはそれを食べましょう』と言ったのですが、彼女は自分の子どもを隠してしまつたのです。」

6:30 王はこの女の言うことを聞くと、自分の衣を引き裂いた。彼は城壁の上を通っていたので、民が見ると、なんと、王は衣の下に粗布を着ていた。

6:31 彼は言った。「今日、シャファテの子エリシャの首が彼の上についていれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」

6:32 エリシャは自分の家に座っていて、長老

たちも彼と一緒に座っていた。王は一人の者を自分のもつから遣わした。しかし、その使者がエリシャのところに着く前に、エリシャは長老たちに言った。「あの人殺しが、私の首をはねに人を遣わしたのを知っていますか。気をつけなさい。使者が来たら戸を閉め、戸を押しでも入れないようにしなさい。そのうしろに、彼の主君の足音がするではありませんか。」

6:33 彼がまだ彼らと話しているうちに、使者が彼のところに下って来て言った。「見よ、これは【主】からのわざわいだ。これ以上、私は何を【主】に期待しなければならないのか。」

7:1 エリシャは言った。「【主】のことばを聞きなさい。【主】はこう言われる。

『明日の今ごろ、サマリアの門で、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られるようになる。』」

7:2 しかし、侍従で、王が頼みにしていた者が、神の人に答えて言った。「たとえ

【主】が天に窓を作られたとしても、そんなことがあるだろうか。」そこで、エリシャは言った。「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない。」

先に「アラムの略奪隊は、二度とイスラエルの地に侵入して来なかった。」とありますから、アラムの王ベン・ハダドは全軍を召集し、サマリアに上って来て、これを包囲した。」というのは矛盾のようですが、ベン・ハダドは列王記の中にも13、15、20章に別人が出てきます。「略奪隊」と称される一群とは別の王が攻めてきたということでしょう。

子どもを煮て食べるなどという恐ろしいことが

起きたイスラエルは末期的な状況でした、これも王はじめ民の不従順によるもので、自ら主の助けを放棄した結果です。しかしそれでも王は悔い改めることをせずに、エリシャに怒りを向けました。不信仰な者ほど問題の原因を人に転嫁しやすいものです。

これに対しエリシャはうろたえることなく、「あすの今ごろ、サマリアの門で、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られるようになる。」との主の救いを宣言しました。ききんは去って豊かになるということです。にわかには信じがたいことでしたが、主にはできるとの信仰です。

出来事の本質は主との関係にあります。出来事の背後に動く主のみこころをしっかりと見て、ふさわしい行動をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 木曜

列王Ⅱ

7:3 さて、ツアラアトに冒された四人の人が、町の門の入り口にいた。彼らは互いに言った。「われわれはどうして死ぬまでここに座っていなければならないのか。

7:4 たとえ町に入ろうと言ったところで、町は食糧難だから、われわれはそこで死ななければならぬ。ここに座っていても死ぬだけだ。さあ今、アラムの陣営に入り込もう。もし彼らがわれわれを生かしておいてくれるなら、われわれは生き延びられる。もし殺すなら、そのときは死ぬまでのことだ。」

7:5 こうして、彼らはアラムの陣営に行こうと、夕暮れになって立ち上がり、アラムの陣営の端まで来た。すると、なんと、そこにはだれもいなかった。

7:6 これは、主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎを聞かせたので、彼らが口々に「見よ。イスラエルの王が、ヒッタイト人の王たち、エジプトの王たちを雇って、われわれを襲って来る」と言い、

7:7 夕暮れに立って逃げ、自分たちの天幕や馬やろば、陣営をそのまま置き去りにして、いのちからがら逃げ去ったからであった。

7:8 ツアラアトに冒されたこの人たちは、陣営の端に来て、一つの天幕に入って食べたり飲んだりし、そこから銀や金や衣服を持ち出して隠した。また戻って来てはほかの天幕に入り、そこからも持ち出して隠した。

7:9 彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれはためらっている。もし明け方まで待っていたら、罰を受けるだろう。さあ、行こう。行って王の家に知らせよ

う。」

7:10 彼らは町に入って門衛を呼び、彼らに告げた。「われわれがアラムの陣営に入ってみると、なんとそこにはだれの姿もなく、人の声もありませんでした。ただ、馬やろばがつながれたままで、天幕もそっくりそのままでした。」

ツアラアトとは皮膚の疾患を伴う重い病です。国をアラム軍に包囲され、多くの人が命を惜しむあまり、子を食べるなどの残酷なことまで起き、またどうして良いか分らず、混乱の中にいました。ところがこの病の4人は、命が短いことを知っていることにより、大胆な行動にでることができました。

世は滅びに向かっている。そして自分たちはそこに固執していても、希望がない。ならば少しでも可能性のある方にかけようというのです。その決断は主のご計画の中でありました。主がアラムの陣営に恐れを起こさせたので、彼らは逃げてしまったのでした。

病の4人はその良い知らせの目撃者であり、また享受者となりました。初めはこの楽しみを隠して自分たちだけのものにしていましたが、それが「正しくない」ことに気づいて、良い知らせを伝えに行ったのでした。

この一連の出来事は、救いや信仰の前進を思わせるものです。主の前に自分自身の現状を見極め、救いへの決断または信仰の前進の決断をする姿です。主は見捨てられた者、またはそれほどにへりくだった者に大きな希望を与え、全てが主の恵であることを示されます。

この4人は単に一王国の限定的な救いに参与しただけでしたが、私たちは国も民族も時代も越えた、永遠の救いに参与することができるのです。すばらしい福音の時代に感謝しつつ、謙遜と勇氣を持って決断しましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

列王Ⅱ

7:11 そこで門衛たちは叫んで、門内の王の家に告げた。

7:12 王は夜中に起きて家来たちに言った。「アラム人がわれわれに対して謀ったことをおまえたちに教えよう。彼らはわれわれが飢えているのを知っているので、陣営から出て行って野に隠れ、『イスラエル人が町から出たら生け捕りにし、それから町に押し入ろう』と考えているのだ。」

7:13 すると、家来の一人が答えた。「それでは、だれかにこの町に残っている馬の中から五頭を取らせ、遣わして調べさせてみましょう。どうせ、この町に残っているイスラエルのすべての民衆も、すでに滅んだイスラエルのすべての民衆と同じ目にあうのですから。」

7:14 彼らが二台分の戦車の馬を取ると、王は「行って確かめて来い」と命じて、アラムの軍勢を追わせた。

7:15 彼らはアラム人を追って、ヨルダン川まで行った。ところが、なんと、道はいたるところ、アラム人が慌てて逃げるときに捨てていった衣服や武器でいっぱいであった。使者たちは帰って来て、このことを王に報告した。

7:16 そこで、民は出て行ってアラムの陣営をかすめ奪ったので、【主】のことばのとおり、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られた。

7:17 王は例の侍従、頼みにしていた侍従を門の管理に当たらせましたが、民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。王が神の人のところに下って行ったときに、神の人が告げたことばのとおりであった。



7:18 かつて神の人が王に、「明日の今ごろ、サマリアの門で、大麦二セアが一シェケルで、上等の小麦粉一セアが一シェケルで売られるようになる」と言ったときに、

7:19 侍従は神の人に答えて、「たとえ

【主】が天に窓を作られるにしても、そんなことがあるだろうか」と言った。そこで、エリシャは「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない」と言った。

7:20 そのとおりのことが彼に実現した。民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。

ひどいききんで食べるものがなくなり、ロバの頭や鳩の糞でさえ高価な銀で買われるほどでしたが、全く想像もできないことが起こりました。上等の小麦や大麦が安価に売られるようになったのです。アラムの大軍が残っていったからです。もはや大軍は恐れではなく、大量の富をもたらすための存在となってしまいました。

このように思いもよらない恵、主の解決、また全てのことが働いて益となることは、クリスチャンの経験するところです。人間の想像の範囲はどうしても限りがあります。その中で、もう無理だと諦めてしまいがちですが、そうではありません。また解決の道筋や条件についても、一つしかないように思い込みますが、神様はむしろ違うやり方で解決と勝利を与えて、全てが神様のわざであることを明かにされるのです。

「そんなことがあるだろうか」と信じないで、滅んでしまった侍従のようではなく、神様ならできると信じましょう。信仰においては心を定めましょう。そして待つのか、進むのかを主に伺いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 土曜

列王Ⅱ



8:1 エリシャは、かつて子どもを生き返らせてやったあの女に言った。「あなたは家族の者たちと一緒にここを去り、とどまりたいところに、しばらく寄留していなさい。

【主】が飢饉を起こされたので、この国は七年間、飢えに見舞われるから。」

8:2 この女は神の人のことばにしたがって出発し、家族を連れてペリシテ人の地に行き、七年間滞在した。

8:3 七年たった後、彼女はペリシテ人の地から戻って来て、自分の家と畑を得ようと王に訴え出た。

8:4 そのころ、王は神の人に仕える若者ゲハジに、「エリシャが行った大いなるわざを、残らず私に聞かせてくれ」と話していた。

8:5 彼が王に、死人を生き返らせたあの出来事を話していると、ちょうどそこに、子どもを生き返らせてもらった女が、自分の家と畑のことについて王に訴えに来た。ゲハジは言った。「王様、これがその女です。そしてこれが、エリシャが生き返らせた子どもです。」

8:6 王が彼女に尋ねると、彼女は王にそのことを話した。すると王は彼女のために、一人の宦官に「彼女のすべての物と、彼女がこの地を離れた日から今日までの畑の収穫のすべてを、返してやりなさい」と命じたのであった。

ゲハジはナアマンの贈り物を勝手に求めたことにより、ツアラアトに侵されました。ツアラアトの者は王の前には出られないことになっていましたから、これはナアマンの出来事よりも前だと思われます。ですから、ききんに関連して、挿入された記事で

しよう。

列王記の出来事を主題に沿って記しつつも、どうしても必要なことがらが、加えられています。それは神様の行き届いたご配慮です。神様は王と民の背信に対して、約束通りに断固とした報いを与えられるのですが、良いものまでもませごぜにして苦しめるようなお方ではないということです。信仰の人である女性に対してエリシャを通して、主はききんとその逃れる道をお示しになりました。さらには帰った後のことまでも守られるように、不思議な導きを通して、「彼女の物は全部返して」もらえたのです。

周囲は神に反するような人や出来事の中で、自分も同化してしまいそうな状況もあるかもしれませんが。しかし、主のみこころを行う者は決して見過ごしにはされません。ちゃんと行き届いたご配慮をしてくださる主の愛を忘れないで生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 日曜

列王Ⅱ

8:7 さて、エリシャがダマスコに行ったとき、アラムの王ベン・ハダドは病気であった。すると彼に「神の人がここまで来ている」という知らせがあった。

8:8 王はハザエルに言った。「贈り物を持って行って、神の人を迎え、私のこの病気が治るかどうか、あの人を通して【主】のみこころを求めてくれ。」

8:9 そこで、ハザエルはダマスコのあらゆる良い物をらくだ四十頭に載せて、贈り物として携え、神の人を迎えに行った。彼は神の人の前に来て立ち、こう言った。「あなたの子、アラムの王ベン・ハダドが、『この病気が治るであろうか』と言って、あなたのところへ私を遣わしました。」

8:10 エリシャは彼に言った。「行って、『あなたは必ず治る』と彼に告げなさい。しかし、【主】は私に、彼が必ず死ぬことも示された。」

8:11 神の人は、彼が恥じるほどじっと彼を見つめ、そして泣き出したので、

8:12 ハザエルは尋ねた。「ご主人様はなぜ泣くのですか。」エリシャは答えた。「私は、あなたがイスラエル人に害を加えようとしていることを知っているからだ。あなたはイスラエル人の要塞に火を放ち、その若い男たちを剣で切り殺し、幼子たちを八つ裂きにし、妊婦たちを切り裂くだろう。」

8:13 ハザエルは言った。「しもべは犬にすぎないのに、どうして、そんな大それたことができるでしょう。」しかし、エリシャは言った。「【主】は私に、あなたがアラムの王になると示されたのだ。」



8:14 彼はエリシャのもとを去り、自分の主君のところに帰った。王が彼に、「エリシャはあなたに何と言ったか」と尋ねると、彼は「あなたは必ず治ると言いました」と答えた。

8:15 しかし、翌日、ハザエルは厚い布を取って水に浸し、王の顔にかぶせたので、王は死んだ。こうして、ハザエルは彼に代わって王となった。

ベン・ハダドは3人いるので、この王はかつてイスラエルを攻めた人物とは違う可能性があります。彼はイスラエルの神とその預言者の力を、ある程度は信じていたようです。呪術者の一人くらいに思っていたかも知れません。

ベン・ハダドが力によって王であり続けたように、ハザエルも力づくで王となりました。神に従わない人は力づくで目的を成し遂げようとし、しかしまた同じように、次は自分が力に屈するのです。神なきこの世の営みは現代も共通しています。

イスラエルは神への反逆によって他国から攻められますが、アラムがその役割を果たしました。しかしそれは正しいことを行ってではなく、まさに暴虐でしたから、王たちも暴虐によって滅んでいったのです。その後には主の御手がありました。私たちは悪い者たちを主にお任せすることができるのです。

主に従わない者たちは勝手なことを重ねながら、結局主の計画に用いられていきます。私たちは主のみこころを行いながら、喜びと祝福によって用いられてゆくものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

